

1. 事業名「2020年度 産総研テクノブリッジセミナーin石川」

2. 事業概要

産総研石川サイトでは、国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)の研究開発の一端を石川県内企業の皆さまを中心にご紹介するイベントとして「2020年度 産総研テクノブリッジセミナー in 石川」を開催いたします。産総研では国内最大規模の公的研究機関として、持続的発展可能な社会の実現を目指した研究開発に取り組んでいます。

今回は、「IoT、AI、ロボット技術を活用した農工連携(含む水産)の開発動向について」と、「イノベーションを支える基盤整備としての標準化活動、事例」をテーマにオンライン開催(Microsoft Teamsによる)いたします。年始ご多忙の折とは存じますが、皆様のご参加をお待ちしております。

○日時 : 令和3年2月9日(火) 14:00~16:20

○参加方法 : 2月3日(水)までに以下の下記リンク先の申込フォームよりお申し込みください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=yP6nGC9ImOCaScn0gGIIcOHNm3tg50p1dN-bGI_-pUREFWSTNE0TEyUUEyNUc2MUU3TOY3QU02RS4u

参加申込時に御記載の E-mail アドレスに対して、Teams の招待をします。

Web 版 Microsoft Teams で参加可能。

無料アプリ版は下記アドレスより入手可能です。インストールしてご参加下さい

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/download-app>

○定員 100名

○主催 国立研究開発法人産業技術総合研究所

共催 石川県工業試験場

3. プログラム

14:00~ 開催挨拶

14:10~15:10 講演1

「IoT、AI、ロボット技術を活用した農工連携(含む水産)の開発動向について」

谷川 民生

(産総研情報・人間工学領域 インダストリアル CPS 研究センター 研究センター長

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業情報研究センター 連携推進監)

15:15~16:15 講演2

「イノベーションを支える基盤整備としての標準化活動、事例」

国岡 正雄 (産総研 イノベーション推進本部 標準化推進センター 標準化オフィサー)

16:15~ 閉会挨拶

4. 講演概要

○講演1. (14:10~15:10)

「IoT、AI、ロボット技術を活用した農工連携(含む水産)の開発動向について」

谷川 民生

(産総研情報・人間工学領域 インダストリアル GPS 研究センター 研究センター長

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業情報研究センター
連携推進監)

○講演概要

「近年、少子高齢化による労働生産人口の減少から、農林水産業の機械化を目指し農工連携という動きが活発化しています。経産省、農水省が連携し、強い農林水産業を実現するために、主に第2次産業で培われた自動化技術の第1次産業への展開を進めようとしています。農業においてはスマート農業というキーワードで農水省がトラクターの自動運転におけるガイドライン策定を皮切りに、ドローン技術等のあらたなロボット技術を農業の機械化にむけた導入支援が始まっており、IoT技術、AI技術、ロボット技術の導入が各所で進められてきています。本講演では、産業技術総合研究所における第一次産業への技術展開の紹介とそのビジネス化の課題を紹介し

ます。」

○講演2. (15:15~16:15)

「イノベーションを支える基盤整備としての標準化活動、事例」

国岡 正雄 (産総研 イノベーション推進本部 標準化推進センター 標準化オフィサー)

○講演概要

「新たな製品、技術、サービスを社会実装するためには、独占的に利益を確保するための知財化と同様に、当該技術の差別化、その市場拡大のための標準化が重要です。該当製品、技術の優位性を明確にする評価法や信頼性、安全性を担保するための要求事項の標準化により、さらなる市場拡大につながります。これらの標準化のプロセス、戦略について説明します。国内コンセンサスが得られれば、業界団体を通じたISO、IEC国際標準化やJIS日本産業標準化が個社のみでも可能ですが、ハードルが高いことも事実です。個社が産総研とともに実施した種々の標準化支援事業(経産省委託費、新市場創造型標準化制度)を活用した標準化例を紹介し

ます。」